

平成17年4月6日

各 位

株式会社UFJ銀行

下記訃報に接しましたので、謹んでお知らせいたします。

記

物 故 者 渡 辺 忠 雄（わたなべ ただお）
満106歳（明治31年9月3日生れ）
UFJ銀行名誉会長（元三和銀行第3代頭取～会長、名誉会長）

死 亡 日 時 平成17年4月3日 午後9時38分

死 亡 場 所 自宅

死 亡 原 因 老衰

葬儀・告別式 近親者のみにて相済ませました。

喪 主 渡 辺 洋 一（長男：わたなべよういち）

連 絡 先 東京都千代田区大手町1-1-1
UFJ銀行秘書室 03-5252-1051

追って、「お別れの会」を行なう予定ですが、日取りなどは未定です。

以 上

< 経歴等 >

渡辺忠雄 (わたなべ ただお) 元三和銀行頭取、会長 勲一等瑞宝章

【経歴】

明治31年北海道生まれ。大正13年東京帝国大学法学部卒業、同年日本銀行に入行。日本銀行資金調整局審査課長、静岡支店長、文書局長等を歴任後、昭和20年9月三和銀行に入行。昭和22年2月三和銀行第3代頭取に就任。昭和35年会長、昭和51年相談役。昭和52年名誉会長の称号を贈られる。平成10年相談役を退任。平成14年1月15日UFJ銀行発足に伴い、UFJ銀行名誉会長。

【足跡】

日本銀行において文書局長などの要職を歴任後、請われて三和銀行に入行、30年間にわたり頭取、会長を歴任、戦時経済により壊滅的打撃を受けていた同行の再建に尽力し、同行を日本有数の都市銀行に育成した。三和銀行の中興の祖と言われている。

頭取、会長在任中、戦後の混乱期にあつては、わが国の技術立国としての将来を展望し、とくに重化学工業を中心とした産業金融の円滑化に取り組み、「重化学工業化」、「国際化」路線を推進、日本産業界の復興に多大の貢献をした。さらに、日本経済の安定とともに、大衆に基盤を置き、大衆と共に伸びるとする「ピープルズ・バンク」路線を標榜、金融界においていち早くコンピュータを導入するとともに、クレジットカード会社(現JCB)、リース会社(現オリックス)を創設するなど、日本の金融界の大衆化に先鞭をつけた。これらの施策はいずれも、戦後の金融機関経営の方向を決定づけたものであり、日本の金融界発展にも多大な貢献をした。

公的活動面では、戦後混乱期に経済安定本部顧問に就任、戦後日本の経済復興政策立案に参画したほか、税制審議会委員、国有財産中央審議会委員、金融制度調査会委員など多方面において政府政策立案に貢献した。(とわけ池田勇人元総理大臣との親交が厚く、同総理が提唱した所得倍増計画に深く関与したことで知られている)

また、金融界にあつては、日本銀行参与、全国銀行協会副会長、大阪銀行協会会長などを務め、日本金融界の健全な発展に貢献した。さらに財界活動においても、経済団体連合会常任理事、日本経営者団体連盟、関西経済連合会各常任理事、大阪商工会議所評議員などを務め、これらの功績により昭和52年勲一等瑞宝章に叙せられた。

その他、成人病医学研究振興財団、サンワみどり基金、吉田五十八記念芸術振興財団などの財団を設立し理事長に就任、医療・教育・文化事業、環境保全問題など広範囲にわたる社会貢献活動を主宰、わが国社会の健全な発展に多大の貢献をした。

履 歴 書

わた なべ ただ お
渡 辺 忠 雄

明治31年9月3日生

学 歴

1. 大正13年 3月 東京大学 法学部卒業

職 歴

1. 大正13年 4月 日本銀行入行
1. 昭和14年 5月 同 資金調整局審査課長
1. 昭和18年 4月 同 静岡支店長
1. 昭和19年 8月 同 文書局長
1. 昭和20年 8月 同 依頼退職
1. 昭和20年 9月 株式会社三和銀行常務取締役
1. 昭和21年10月 同 専務取締役
1. 昭和22年 2月 同 取締役頭取
1. 昭和35年 5月 同 取締役会長
1. 昭和51年 4月 同 相談役
1. 昭和52年 1月 同 相談役名誉会長
1. 平成10年 6月 同 名誉会長
1. 平成14年 1月15日三和銀行・東海銀行合併しUFJ銀行となる
株式会社UFJ銀行 名誉会長

以 上